

「リウマチ性多発筋痛症・ブドウ膜炎・メニエール病・黄斑変性症・
アトピー性皮膚炎・ヘルペス性発作性高血圧症手記」

徳弘 徳子 76歳

2014年4月9日

松本先生との出会い許される幸せ

発症

平成23年6月15日トイレに起きるがヨタヨタとしゃがみ込む、痛みで立ち上がれない、這って用をたす。10日前から全身のだるさ食欲不振、酷い耳鳴り、関節痛、筋肉痛（高熱の折と一緒に）左右肩回り、大腿部、指関節のこわばり、微熱37.5度前後、枕もいくつも取り替えてみたが相変わらず。敷き布団のマットも取って見たが一向に良くなる。いつも行っている鍼灸院へ行ってみても痛みから解放されなかった。

医大整形外科受診、平成23年6月20日担当医は「血液検査の結果一つ残っているが多分リウマチ性筋痛症でしょう」と診断される。「一週間は待てないでしょうから」と言い痛みと炎症を抑えるセレコックを処方される。

医大整形外科最後の受診平成24年4月7日

約一年間の間に網膜剥離2回、網膜裂孔一回低に水が貯留しているので、自然に治癒しか無い、レーザー不能、結果黄斑部視野欠損、物が歪んで見える。途中平成23年9月27日肺炎。ステロイドの為、身体はパンパンに張り鍼灸も出来なくなる。薬が効いている間に、家事を最小限して後は、昼夜区別なくベッドに入るが全身痛み、起きたり座ったりで失意のどん底でした。その間ステロイドは4~5錠とアクトネル（骨の薬）処方される。ステロイドの一番無気味なことは、服用して5~6時間経過後はあれだけ痛みには堪えかねていたのに、ケロリとして夢の様でした。此の儘、医大整形で治療を受けても、ステロイドの増減の繰り返しで、良くなるどころか増々悪化して風呂上がりのバスタオルも重く腕の痛みで上手拭く事が出来ず、バスタオルを広げて、ころがり包み拭く状態になり右手も人差し指と中指がからまって包丁も握れなくなり、挫折感と絶望感に打ちひしがれていました。しかし、出来ない事を嘆いたり、悲しみに浸る暇は無い。なんとかしなければ、一人暮らしは成り立たない。方法はないかとインターネットを漁り「ステロイドは使用しない」と朱記された文字が目飛び込んで来た時は地獄に仏とはこの事だと小躍りしました。松本医院へやっと辿りついたのです。寝食を忘れて引き付けられ、論文を拝読させて戴きました。医学的な事は皆目と言って良い位知識はありませんでした。先生の論文は論説展開がステップを踏むごとに論点に近付き最後は命題その通り成立し、一つ一

つ領く事が出来助かりました。「松本理論を信じる事は免疫を100%信じると同義」この一行に引き付けられました。文字を大きくページ設定をして全部プリントアウトしました。自分の場合、将来の未来図を想像し、今、自らが何をすべきか、何が出来るのか、切羽詰まった状態で、一握りの望みを託して、道しるべを求めての選択でした。

松本医院へ行く平成24年4月18日

AM3:00いつもの様に激痛が始まり、AM6:00ステロイド3錠を服用して、まだ明け遣らぬ道を海岸線に沿って、マイカーで空港へ急ぎ一番機に搭乗しました。でも不安は付きまとう、家族同伴が頭をよぎる。タクシーを降りて階段を上がると、レトロなインテリアに仄かに漢方薬の香りが漂い、幼い時母に連れられ一緒に行った下関の医院を重ねていました。果たしておいぼれ老人が一人で行ってGOサインが戴けるか？処方箋を出して下さるか？心配で何をお話したか覚えていません。只、先生のテンションにびっくりした事と握手をして下さった手の温もりは覚えています。ほっとしました。

治療経過

平成24年4月～5月、平成24年4月19日ステロイド中止。大阪から帰り早々ステロイドの残りを庭石の上の置き金槌で粉末にし、それに土を混ぜて絶対に使用不能にして放棄しました。それだけ魅力があって恐ろしい無気味な毒薬です。危険を誘発する医薬品です。漢方薬（漢方浴剤、煎じ薬、赤い軟膏）治療が始まりました。AM2:00頃になると激痛に（両腕、肩、足）襲われ痛みを和らげる為起きて鏡を見ながら肩、腕、足とか出来る所へ灸をすえて堪えました。指が絡み出すと指の又にすえたり、足の裏の痛みには、まる太踏みもしてみました。

松本医院へ行く平成24年5月22日

鼻水、口中ねばり何回も出す。耳鳴り。ステロイドから離脱する頃痛みの為、昼夜を問わずどうしようとも無くてベッドに足を投げ出してクッションを置き両腕を前にだらりと伸ばし頭を横にして悶え苦しんだ折の事でした。お薬の注文の時、私「いつまでかかるのでしょうか」先生「わからん」一寸騙しでも玉虫色でも良い、せめて「早くても半年位かかるかも知れん」と返答が欲しかったのです。それなら「半年よ。半年。だから我慢して。」と自らに言い聞かせて慰めたものを、余にも直なお答えにがっかりして反射的に私「賽の川原の石積みでは？」先生は悲しそうな静かなお声で「その病氣貴女が作ったのでしょうか」と一言いわれ論されました。苦し紛れとはいえ大変な事を口走ったと反省して、この出来事があってからいっそう論説にのめり込んで行きました。足はゴムの樹の乳液を取っている様に、見る間に噴出した滲出液は、下に垂れて汁はネバネバです。垂れ流しに困りティッシュの箱を持ちしばらく拭いてはいたものの一日中やる訳にもゆかず、タオルを巻いて上下を括り靴下を履

く。足の爪、足裏と手の掌が捲れ滲出液で一番困り、足の甲と裏は亀の甲殻の様に丸く剥がれて痛く泥棒歩行、テーブルの角にタオルを敷き練馬大根を通り越して聖護院大根二本の足を置き、お盆に食器を並べ抱えてラッコの食事、右左の耳から滲出液。歯も痛みを覚える。唇も紫色に両縁が切れネバネバ唾液、両手の指からむ、体の前面、目の周辺、胸、腹、腕、背面、背、腰の周辺痒い。衣類は縫い目の擦れが猛烈に痒いので裏返して着用、体中の皮がめくれてベッドの回りも歩く所白く小雪が舞う。最低の家事をして只、只、丸太の様に転がる。

7月22日P.M3:00頃パニックに陥って先生にお話しを聞いて戴きました。

電話の向こうの哀れな私を御存知の様に「毎日でも電話しなさい」そんな事出来る訳ないけど、なんと安堵した一言でしょう。思わず涙ぐみそうになりました。この頃、痒み70%、痛み30%

7月28日夕刻から38.8℃前後の高熱と頻脈が7月30日までの三日間続く、血液及びリンパ管中に病原菌が侵入して高熱と頻脈と思う。フロモックス100で対応。平成24年8月歯みがきは気分悪く塩でみがく。両耳は聞えにくく、右左の目は、はれぼったくつぶれてまぶたから、足の甲、足首はパツリ口を開けて何れも滲出液、入浴と歩行に困る。浴槽には何とかつかれても、上がるのに一苦勞(体重増)足に力が入り甲が切袋、口の周り、おでこにブツブツ発疹、八月に入って頻脈に苦しめられて肩で息をし、口はハアハア息苦しく横になれない、脈拍は110前後、体中は滲出液で濡れて気が悪く悪寒、全部着替える事何回か数え切れない。足のタオルも一時間とは持たない。冷感と灼熱と頻脈の繰り返し、体重は65kgで17kgオーバー。背中も首も頭にくっついて真赤、お化け屋敷にそのまま立てそう。まどろみの中8月29日松本医院へ行く。先生「どうした？」私目も上げず「しんどい」と呟きを漏らして目醒めた。リバウンドの苦しさや孤独感に苛まれ耐え、膨大な洗濯物の山にげんやりしながら、タオル一枚ひっかけては壁にもたれて、一時は涙さえ流す気力も萎えていました。先生とコンタクトを保つ事が唯一の支えでした。

9月15日煎じ薬アトピーに変わる。タオル50枚買い出し頼む、頭皮から始まり体全体猛烈に痒い、頭髪はごっそり抜け落ち殆ど坊主、手の掌は両手とも切れ、痛く爪も剥がれ、とうとう白い手袋使用。

9月22日AM1:00タオル替の折、右目真赤、見えにくい、それに痛む、血の海に目玉がありの状態。フロモックス100服用。耳は年棒で掃除してもワーンと響き凄いい耳鳴り。テレビはむろん、洗濯機、電子レンジ、電話(最大限大にする)仏壇の鐘は叩いているのに聞えない。音無しの世界。この頃松本先生は「元気がいいね」とおっしゃっていましたが、殆ど聞こえてないので自らの声の大きさも分からなかったのです。薬の注文の折もえーと問い返すので、始めから生年月日を言っていました。足の滲出液がどれくらい出るか、ビニールの袋に取って見ると、片足30分で50cc~70cc出る。この頃タオルを替えると片っ端から出て終わると早濡れて重い。アトピー炎症、症状に加えて大量に増殖したヘルペ

スウィルスとの戦いの合併症。（皮膚がヒリヒリ、ジリジリ痛むのも表皮細胞が崩壊して大量のリンパ液の滲出も）後天免疫であるIgGの働きですが、IgG抗体自身では殺せないで、免疫細胞の力を借ります。IgGは両手で感染細胞の表面の膜に表示されているヘルペスウィルスのペプチド（アミノ酸21個）と結びつき、シッポに免疫細胞のナチュラルキラーT細胞、大食細胞、好中球等

（細胞障害性細胞）が結びヘルペスウィルスの感染細胞を破壊します。この抗体の働きをADCC（抗体依存性細胞障害）と言われ細胞自殺（アポトーシス）を起こさせます。様々な酵素や化学物質が細胞障害性細胞から放出され末梢の感覚神経が刺激されて痛みを感じるのです。アミノ酸と蛋白と大量に摂取する必要があり血中の免疫グロブリンとアルブミンが蛋白の取り合いをし、リウマチの炎症を抑制せず続けるとグロブリンがどんどん作られ消費されアルブミンが減りすぎて循環血流量が減少して急性腎不全の心配や栄養を運ぶ仕事も出来なくなるのでアルブミンの素材の肉、魚、大豆、卵、乳製品とアルブミンを作るビタミン、ミネラルが必要なので野菜、果物、海藻類に注意していました。この頃は動けないので、二食給食宅配を取っていましたが、スーパー宅配を週一利用してその度に日用品の外、西瓜大玉、鰻重、とり串焼き20本、のり巻きすし、サーロイン一枚（自ら一枚焼く）その他黄瓜、季節のくだもの、ポカリスエット等を配達してもらっていましたが、動けないのに不思議と食欲はありました。私がいかに大きき、歩行も出来なかったもので、ばあさんきつとボケて腹の張る（腹が一杯になる）事が判らないらしいと思い「弁当宅配取っていましたね」「お一人でしたね」と何度も聞かれました。いくら病気と説明してもいつも心配そうな顔をして首を傾けていました。（安否確認の為）今はあの頃の1/3も食していません。やっと買い物ができるので宅配も取っていません。

平成24年10月食事をしたりベッドに入って身体を温めると猛烈に痒みがやってきます。まずは頭皮から身体へと移ります。夜々ベッドから滑りおりにキッチンへ行き、扇風機を弱に回し、少し離れた所でスッポンポンで椅子に座り異様な臭いを放つ熱い身体を乾かしながら両手は肌を忙しく這う。気違い沙汰、情けなくなり目頭が潤む。いつまでこんな作業（朝までに今でも二回～三回）夜毎に続くのか？浮腫みパンパンになりジリジリ痛く荒れて黄や赤の軟膏を摺り込む、滲出液の出る足は軟膏を塗りタオルを巻いても尚ジリジリ痛む身体は寒くなり下着から一切着替えて布団（足液が滲み出るので化繊の毛布を簀巻に身体に巻きその上から掛け布団）へ潜り込む。

キッチンの明りをつけるとドアの向こうたくさんの虫が集まる。それを捕獲する為ヤモリがガラスに貼り付く。忙しく吸盤が移動する。もう今は何も無い、夜気に透明のガラスが曇りかけた。生あくびをしながら、首、胸を搔く、早く眠りに落ちないと又痒みがやって来る。旨くいったら一時間位眠られるが、いつも30分位まどろむだけの時が多い。自らのリバウンドの症状が強烈な事も判っている。予測は出来ないで、はがゆく思いじれたい。でも時の過ぎ行くのを待つしか無い。仕方無い、あらがうのではなく寄り添うしか無い。

目は飛蚊症酷く、視力低下（遠近両用）で新聞が読めていたのに今はルーペ併用、耳は昼夜区別なく耳鳴り酷い、滲出液はまだ出ているが、聞こえは少々良くなり、テレビの音量50～55位でアナのニュースはなんとか判るがドラマは一切駄目（イントネーションの関係）足の肌の突起が臍下少し滑らかになりかけたが、

液は出て痛みも変わりなくあり、足を垂らして腰かけても、歩行も短時間（部屋の内）体重は58kgでまだ10kgオーバーです。風も無く暖かい日差しが座敷いっばいに降り注ぎます。何処行きたいなもう六ヶ月も外出なしですもの。

11月に入ってもAM2:00～AM3:00頃起きて扇風機で乾かしながら掻く。全部着替えは一回になるが足はまだ二回～三回タオル替えがある。11月25日頃から心臓が痛く、無呼吸出現？ヘルペスウィルスの所為との事、ともすれば弱気になる心を鼓舞さす時があるのです。その時は膨大なコメント付きのリウマチさんありがとうございますにアクセスして人間松本先生におめにかかりに行くのです。正直でシャイでナイーブな心優しいお人柄が偲ばれてほっとします。

苦難を克服して一生懸命研鑽を積み理論と実践を帰納的かつ演繹的にフィールドバックし合いながら、アンチ現代医学を貫き通して、松本医学＝医学の真髓と編み出された先生に感謝感謝です。敷衍拡大のお陰で勉強が出来ます。遅滞ながら松本医学の真髓を知り、自ら自身を救いたい気持ちで、自身の現象（症状）を第三者になって客観的に観察して、コツコツ勉強しました。（現在も進行中）それで判ったことは、自分は重篤であり最悪のシナリオであることに気付かされました。

平成24年12月

部屋を温めると猛烈に痒い。暖房を切ったり入れたり忙しい。扇風機に当たって掻き始めると次から次へと止めどもなく掻きむしり血の滲む事もある。（臍下以外）

目は水玉くるくる廻り、視力低下、飛蚊症、左目顔面神経がピクピクする。頭は一瞬ジーンと時々しびれる。足の滲出液は減ったが痛みもある。

平成25年1月～2月

兎に角痒い。床に入っても まどろむ程度。掻き腕が疲れる。耳の聞こえはばらつきがあるものの、電子レンジ、洗濯機、テレビ等音が聞き取れるようになる。右耳は滲出液は出て、耳鳴り酷い。足はズキズキ痛み、滲出液多くなった様に思い、ベルクスロンをお願いする。手と足の爪は縦に筋が入って、泥団子をくっつけた様になり横が縮み、爪ぎわにささくれが出来痛い。爪の厚さ（親指で3mm）はあり、物を拾う事が出来ない。まともに掻けないので、爪の背で掻く。皮膚はカバが泥沼から上がった様で、その上を掻くと小雪が降る。

平成25年3月～4月

昼夜を問わず痒い。床の中でトトロしながら、掻き疲れて明け方までまどろむ。この頃は心身共に寛ぎたいと思い、風呂で2~3時間仮眠をしたり出たり入ったりして過ごす。右耳はリンパ液まだ少々出る。耳鳴りも酷い。目前をギザギザや白い綿の様なもの左右に動く。一年余り行動の自由を無理矢理に奪われました。暮れなずむ夕景の中、北山の稜線を飽くことなくくる日もくる日も夜の帳が出て、星々や遠方の灯火などが瞬き始める迄、じっと佇んで居ました。只の一日とて同じ夕景はありませんでした。足はタオルはまだ巻いていますが垂れる程ではないので、十一ヶ月ぶりにマイカーで山を下りました。(時速30kmで約30分)

スーパーで買物と思いましたが歩いてないので、すごく足腰が疲れたのと、痒くてお手洗いに飛び込んで一頻り掻き、急ぎ帰りました。でも、この日の至福感は一生涯忘れることはないでしょう。

平成25年5月~6月 松本医院へ行く

5月14日やっと念願が叶いました。(足の滲出液が出なくなったので)

前日、空港ホテルで一泊、その晩、入浴時に床で滑り、反射的に横の便座に掴まり肋を打つ(右側)。帰っても俯いて物を拾えないし、シャックリ、クシャミ、咳、息をしても痛む。乙字エキス顆粒を服用。肋は痛み腕を上下する事も苦痛で痒いのに掻けない。

仰向けになりたいが右肋が引きつり一層痛む。右耳滲出液まだ出る。耳鳴りも酷い。目やにひどく見えにくい。顔、手の掌、甲もアトピー出て掻くと汗が出て、水仕事に困る。足の滲出液は止まった所へアトピー出始める。

平成25年7月~8月

7月7日より煎剤変わる

7月7日明方

足に異常な痒みを伴う痛みで起きて、ベッドに腰かけて見ると、臍下から足の甲、土踏まず、足全体500円玉大の赤斑点が見る間に水疱疹に変わる。半日で体全体が浮腫み4kg増。尿はポチポチ滴が垂れるだけ。一時的腎不全と判断して、水分補給。終日食欲なし。西瓜、ポカリスエット、牛乳等。

7月8日 PM1:00

体温38度 高熱

食欲はないのに胸苦しい。おかしい尿は出ないのに水便有り。(しんどいけど煎じ薬はいつもの様につくり飲んでいた)

夕方、薬湯に浸っても、いつもと違い汗も出ない。悪寒、怠い。フロモックス100 服用始める。

7月9日 PM10:20

39.7度

悪寒、終日気分悪い。

夕方、薬湯に入るが汗が出ない。しかしこの日の夕方から尿は少し出始める。

7月10日 AM12:26

38.7度

足の潰れた所すごく痛む。まぶた腫れて痒い。頭痛、耳鳴り、尿量少ない。

7月11日 PM4:00

38.4度

体温は夕刻から明方迄高い。

顔も胸にも頭皮その他全体に500円玉アトピー出て痒い。口中カサカサ、舌ツルツル、唇黒く変色、左右切袋、痛む。尿は普通に出始め10回前後。又、まるで茹で蛸。

7月12日 AM3:49

37.8度

右首、足の股リンパ痛む。体に手をやり触ると皮が剥け、爪を残して殆ど剥けて汁が垂れ脱皮の感。痛い、それでも痒いのでシャツの上から掻く。足の滲出液は3時間位に1回、又タオルの交換。又、歩行はお預けになる。

7月13日

この頃より平熱になる。

体中ズキズキ、痛み痒い。わにの背を欺き渡った因幡の素兎（いなばのしろさぎ）。目はギザギザや水玉が左右に走り飛蚊症も酷い。

7月25日

猛烈に痒く。

痛く居場所が無くて薬湯にPM4:30～AM4:00迄。時計を見てびっくり。トロトロして居たらしい。

平成25年8月

八月は例年になく暑く堪える。

平成25年9月～10月

九月は息子が久しぶりに帰ると言うので掃除に疲れる。

私の治療を半信半疑に思う息子がこのシビアな状態を見るに忍び無いと思い、もし病院へ無理矢理連れて行く様な状態になれば私の我慢が水泡に帰す恐れあ

りと判断し、帰る事を禁止していました。
隣人ともなるべく顔を合わさない様に気を付けていました。
高血圧と頻脈の発作に悩まされる。

10月22日 PM11:10

血圧216/99

遅くて悪いと思ったが、先生にお電話をして降圧剤を注文。

10月25日 AM4:00

血圧182/89

高血圧に頻脈が添う。カルスロット20、トーワミン25 服用。
発作が起きると、横になれないので、落ち着く迄（明方）ベッドに足を投げ出して毛布を被って座る。

平成25年11月～12月

11月1日 松本医院へ行く。何とかならないかと思い。

11月8日 前週の鍼灸が気持ち良かったので行った。

発作月日 10/29 10/31 11/2 11/7 11/15

11/18 11/22 11/25 12/2 12/29

カルスロット20とトーワミン25で対応して何とか乗り越える。

身体は、足、腰、腕、腹、痒く小さい水泡が乳下、脇とかにバラバラ出て、4、5日で消え、又出る。

右目見えにくい。右耳リンパ液出て、入口切れ、髪毛も濡れる。足は重く部屋の内歩くのにしんどい。

この頃、買物は短時間で済みます。カートを押して歩いてもしんどい。

右目は紙面を読んでいたたり、見ている時に若草色の唐草模様が入り見辛くなる。視野欠損（中央）の為、書いていると何行にも見えて疲れる。

平成26年1月～2月

1月1日 PM11:18

血圧207/104

高血圧に頻脈と目眩が合併して最悪。トイレもふらつき伝い行き。

1月29日

松本医院へ行く。血液検査をお願いする。

2月29日 AM3:09

血圧213/106

頭痛、カルスロット20、トーワミン25。発作の日は夕方血圧は高く上がり気味。この頃、高血圧だけの時は、カルスロット10～20で対応。

左右の足はジンジンして夕方にかけて、浮腫み重い。

平成26年3月

3月5日 AM12:09

血圧210/101

まだベッドに横になり起きていました。起きている間に発作の起きるのは初めてでびっくりする。胸が一回ドキッと波打って気持ち悪くなる。カルスロット 20 トーワミン 25 服用してベッドに座る。

現在の体調

身体は（足、腰、腹、腕、まぶた、頭皮等）痒みを覚える時は、一頻り搔くが、以前の様に睡眠を妨げる程ではない。3～4時間は続けて安眠出来る。

高血圧と頻脈、時々目眩と立ち眩み、視力低下で右目視野欠損と歪んで見える。目前をギザギザや白い綿、水玉が移動してちらつく。

聴力は低音、弱音が聞き取りにくい。耳鳴りは風呂上がりなどは物凄い。口中は渋柿をかじった様にザラザラして味も鈍る。

いつも首肩は凝っていますが、発作が始まる前は、肩首、背が凝り、右こめかみから上に上がり頭痛の後、スーッと気分が悪くなり発作が起きる。発作が起きた後に、歯も浮いた様に痛み、口全体が渴く。時には、喉、胃も痛み、ゲップ、耳鳴り酷い。顔はステロイド皮膚症で黒い。足はいつも重い。（夕方になると特別）体重46kgです。

終わりに

私もそうでしたが、松本医院へ辿り着く迄は、病に苦しめられ医大は治った人もあり、治るかも知れんと、翻弄され悩みました。HPの論説を二日間読み込み、これしかないと確信を得て、全幅の信頼を抱き受診しました。

先生は生きる希望、方向づけを患者に力強く与えてくれるのです。

不安を払拭してくれるのです。日本一ではなく世界で唯一、漢方薬を用いて免疫を上げて、膠原病を始めアレルギー、他 難病と言われるこの種の病を治すプロセスを御指導して下さいます先生です。

残りの人生を健やかに過ごす為の病の事、薬の事、心の有り様等いっぱい学ばせて戴きました。

陳腐の影が忍び寄る人生最終章にて御縁を戴いた事に感謝します。自宅で四季の移ろいを楽しみながら草むしりをしたり、運転を再開してコーヒーの香にひとときのやすらぎを覚えます。太陽がサンサンと降りそそぐ下を闊歩したいと何程切望した事か。夢の様です。治療開始から二年が過ぎようとしています。まだ完治ではありません。この先どんなリバウンドが御膳立てされているか未知数ですが、完治に向けて努力します。

院長先生、副院長先生、鍼灸の先生、医院のスタッフの方々、本当にいつもや

さしく接して下さり御礼申し上げます。
この身を持って、シビアな状態を外的あるいは内的に現実との直接的接触を正直に綴ったものです。これをお読みくださった誰かにとって少しでもお役に立てたらと念じながら筆を擱きます。

以上